

わかりやすい佐世保市の決算書

～令和5年度普通会計決算～



佐 世 保 市

目 次

はじめに	1
1. 決算ってなに？	2
2. どんなお金が入ってきたの？	3
3. どんなことにお金を使ったの？	5
4. 具体的にどんなことをしたの？	10
5. 貯金や借金はどれくらいあるの？	16
6. 佐世保市の財政は大丈夫なの？	17
7. 令和 5 年度決算を振り返って	20

は じ め に

佐世保市では、市民の皆さんに、市政運営に関する情報をより広く知っていただきたいと考えています。決算については、決算書や主要な施策の成果の説明等を公表していますが、これらは主に数字や文章で書かれており、慣れていない方にとっては少し読みにくいものとなっています。そこで、多くの市民の皆さんに佐世保市の決算状況や税金の使い道などを分かりやすく知ってもらいたいという思いから、本冊子を作成しています。

佐世保市では、道路の整備や子どもたちの教育、社会福祉全般、ごみの収集など、皆さんの生活に密着した様々なサービスを提供しています。

この冊子を通して、市の事業や財政状況に関するご理解を深めていただけると幸いです。

（注１）本冊子では、分かりやすい表現を重視しています。

（注２）本冊子では、総務省が定めた全国一律のルールにより算出した、普通会計決算に基づいた決算額を記載しています。



1

決算ってなに？

市はあらかじめ、どんなお金が入り、どんなことにいくら使うかという計画を立てています。

これを「予算」といいます。

この計画に対し、実際にどれだけのお金が入ってきて、どれだけのお金を使ったのかをまとめたものを「決算」といいます。

計画どおりにきちんと使われたのか、市民の代表者が集まる議会などで内容を確認していただきます。

★予算から決算までの流れ



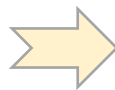
予算編成

1年間にどれくらいのお金が入ってくるかを見込み、お金の使い方の計画（予算）を立てます。



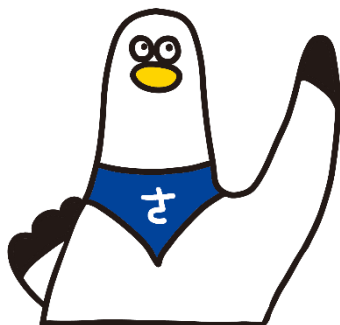
予算執行

お金の使い方の計画（予算）に沿ってお金を使っていきます。



決算

計画に対して実際にどれくらいのお金が入り、使ったのかを公表し、議会で承認をいただきます。

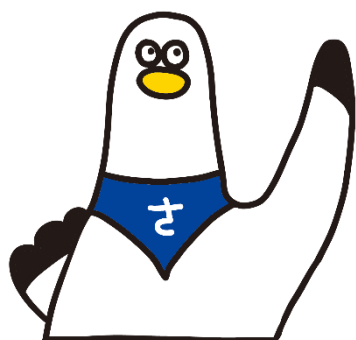
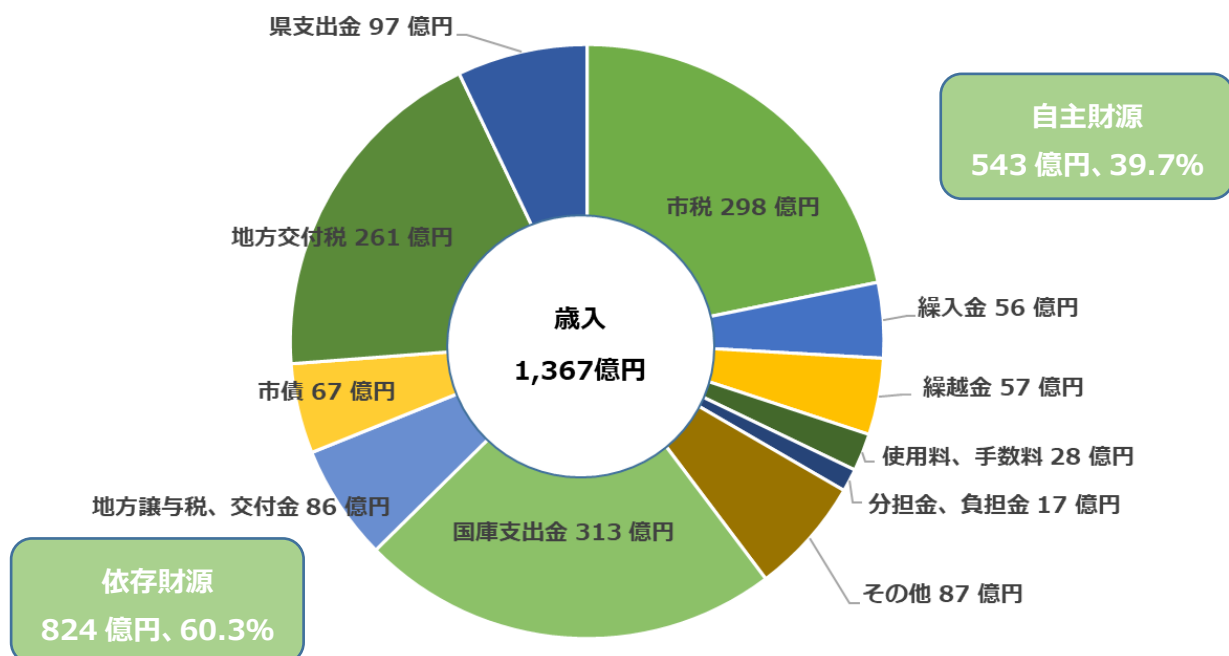


1年間の予定を立ててお金を使っていくけど、台風などの自然災害の発生や、新型コロナウイルス感染症などの社会情勢の変化などによって、状況が変化することがあるよ。これらの予定していなかった事態に対応するために、年度途中で計画を変更することがあり、これを「補正予算」というよ。

2

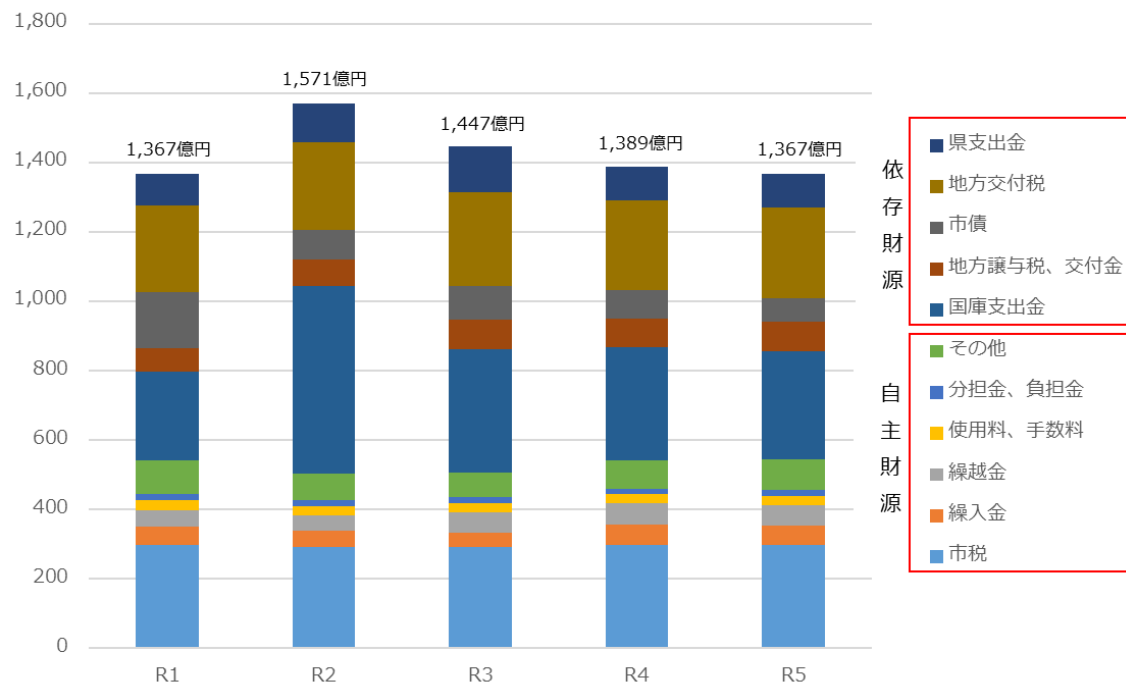
どんなお金が入ってきたの？

令和5年度の決算では、入ってきたお金（歳入）は、1,367億1,060万円となりました。費目別では下記のとおりとなっており、市内に住んでいる人が納める個人市民税、市内に事務所がある法人が納める法人市民税、市内に土地や家などを持っている人が納める固定資産税といった税金のほか、国や県から入ってくるお金、施設の使用料、銀行などからの借金、貯金を取り崩したお金などがあります。



「市税」から「その他」までは自主財源といい、その割合は全体の約 39.7%となっているよ。それ以外は依存財源といい、全体の約 60.3%を占めているね。市民の皆さんからいただいた税金は自主財源の多くを占めていて、市の重要な財源になっているよ。それぞれの項目については8ページで解説するね。

過去5年間の歳入の推移（費目別）



解説

過去5年間の佐世保市の歳入の推移をグラフで示しています。歳入全体は昨年度より1.6%減少しました。特に、「国庫支出金」と「市債」が大きく減少しており、これは子育て世帯などへの給付金の減少や小学校建設費の減などにより市債の借入額が減少したためです。

令和2年度は歳入決算額が大きくなっていますが、これは令和2年度に新型コロナウイルス感染症による経済的影響への緊急経済対策として、1人10万円の特別定額給付金が支給されたことによるものです。この給付金自体は佐世保市が支給しますが、それにかかった費用は全て国庫支出金として佐世保市に入ってきています。

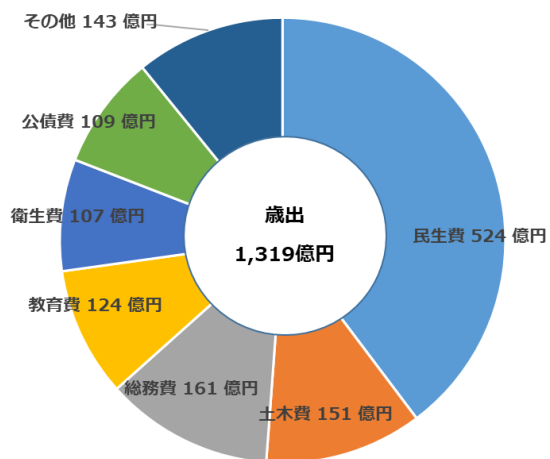
自主財源についてはほぼ同水準で推移していますが、上記のような国の経済対策などがあった場合、依存財源の規模が変動するため、それに合わせて決算規模も増減することとなります。

3

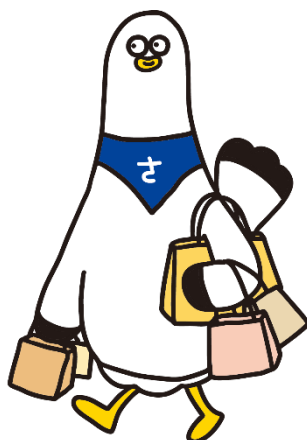
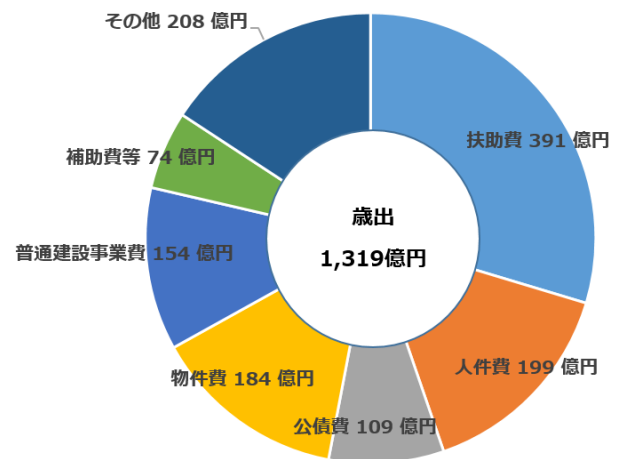
どんなことにお金を使ったの？

令和5年度の決算では、使ったお金（歳出）は、1,318億5,741万円となりました。
「何のために使ったのか」という観点で分類したものが目的別、「どんなことに使ったのか」という観点で分類したものが性質別という分け方です。

目的別

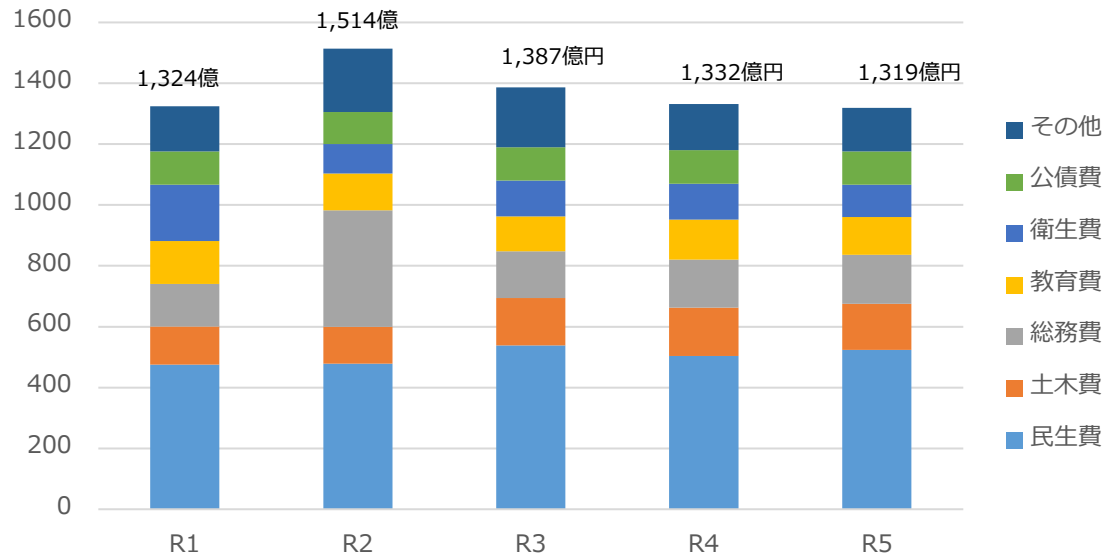


性質別



目的別では民生費が524億円で、歳出全体の約39.7%を占めているね。性質別では扶助費、人件費、公債費を「義務的経費」というけど、それらで歳出全体の約53.0%を占めているよ。義務的経費については支出することが制度上義務づけられているから、削減することが難しい経費だよ。それぞれの項目については9ページで解説するね。

過去5年間の歳出の推移（目的別）

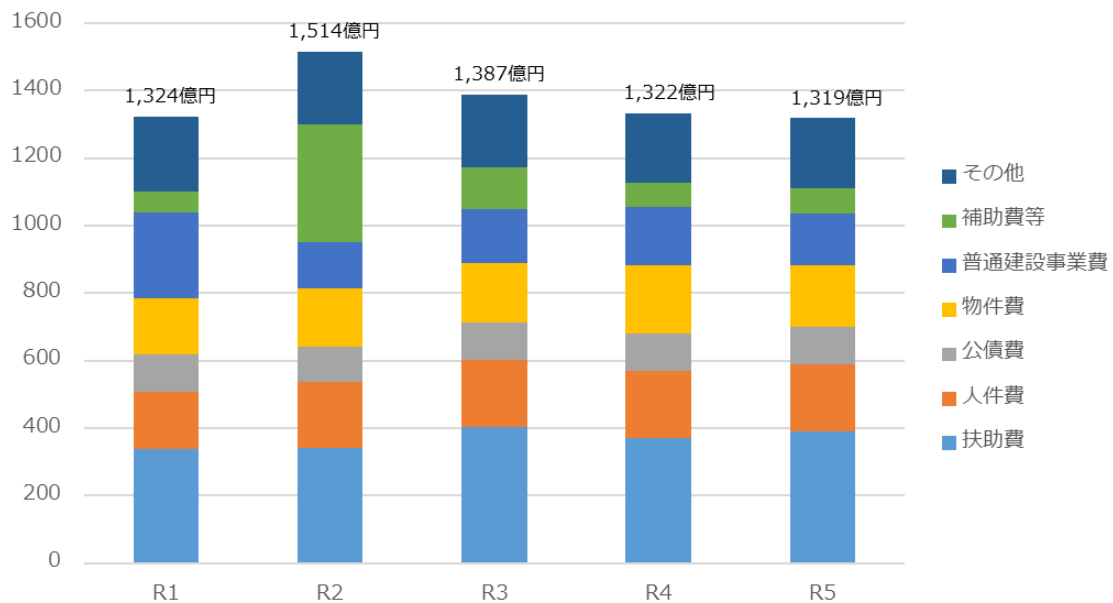


解説

過去5年間の佐世保市の歳出（目的別）の推移をグラフで示しています。歳出全体は昨年度より1.0%減少しています。特に、「衛生費」と「教育費」が減少しており、これは新型コロナウイルス感染症対策のための経費や、老朽化が進んでいた日野小学校を改修するための経費が減ったためです。また、「民生費」は住民税非課税世帯への臨時特別給付金の支給、「総務費」は市長・市議会議員選挙の実施などにより増となりました。

本市の特徴として、子どもや高齢者、障がい者などへのサービスを提供するための「民生費」の割合が大きく、高齢化の影響などで今後も増える見込みとなっています。

過去5年間の歳出の推移（性質別）



解説

過去5年間の佐世保市の歳出（性質別）の推移をグラフで示しています。義務的経費（人件費・扶助費・公債費）は昨年度より2.8%増加しました。特に「扶助費」が増加しており、これは住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金の支給による増のためです。

扶助費は子どもや高齢者、障がい者などを支援するためのお金のことですが、毎年、歳出の多くを占めていることが分かります。扶助費については民生費と同様、高齢化の影響によってこれからも増加することが見込まれています。

また、老朽化した公共施設の補修・更新や学校再編などによる普通建設事業費の増が今後見込まれています。

歳入の分類

項目	説明
自主財源	市が自主的に収入できるお金
市税	市民の皆さんから納めていただいた税金 (市民税、固定資産税、都市計画税など)
分担金、負担金	市の行う事業により利益を受ける方からいただくお金 (保育料など)
使用料、手数料	市の施設の利用や特定の事務により利益を受ける方からいただくお金 (テニスコート使用料、住民票の写しの交付手数料など)
財産収入	市が有する財産の売払い等により得たお金 (土地売払収入など)
寄附金	市にいただいた寄附金 (ふるさと納税寄附金など)
繰入金	各会計からの資金の受け入れ、基金の取り崩しなど (預金の引き出しなど)
繰越金	前年度に余ったお金
諸収入	その他の収入 (指定ごみ袋代、宝くじ交付金など)
依存財源	国や県の基準により決まった額を交付されるお金
国庫支出金	国から佐世保市に交付されるお金
県支出金	県から佐世保市に交付されるお金
地方交付税	国税の一定割合を財源として、国が一定の基準により市に交付する お金
地方譲与税、交付金	国や県から一定の基準により譲与、交付されるお金
市債	市が国の機関や銀行等から借り入れるお金

解説

表の色がついている箇所は「一般財源」と言い、使い道が決まっていないお金で、どの事業にも使う
事ができるお金のことを言います。それ以外の財源は「特定財源」と言い、使い道が決まっているお
金のことを言います。

歳出の分類

目的別

項目	説明
議会費	議員報酬や議会の運営にかかるお金
総務費	庁舎管理、市税の賦課徴収、戸籍の管理、選挙などにかかるお金
民生費	社会保障や福祉施設の管理・運営などにかかるお金
衛生費	予防接種やがん検診、ごみ収集などにかかるお金
労働費	労働者の就労支援などにかかるお金
農林水産業費	農業の振興や山林の管理などにかかるお金
商工費	商工業の振興や、観光の推進などにかかるお金
土木費	道路、公園、市営住宅などの整備や維持管理にかかるお金
消防費	消防や防災などにかかるお金
教育費	教育環境の整備や社会教育などにかかるお金
公債費	借金の返済金

性質別

項目	説明
義務的経費	制度的に義務付けられた経費
人件費	職員の給与や議員報酬にかかるお金
扶助費	子どもや高齢者、障がい者などを支援するためのお金
公債費	借金の返済金
裁量的経費	政策により柔軟に増減できる経費
物件費	消耗品や印刷代、光熱水費などのお金
維持補修費	道路や施設などの修理にかかるお金
補助費等	民間に対する補助金、他の公共団体に交付される交付金など
積立金	財政運営を計画的に行うための貯金
投資、出資、貸付金	中小企業の経営安定化を目的とした貸付金など
繰出金	他の会計に支払うお金
普通建設事業費	道路や施設の工事などにかかるお金
災害復旧事業費	台風などの災害により被害を受けた施設等を復旧するためのお金

令和5年度に実施した主な事業について、目的別に紹介します。

議会費

市政推進事業

323万円

市政推進のため、当面する課題について、市長とともに国等に対し要望活動を展開しました。
また、基地問題や交通問題など、市議会として課題解決のため、調査研究等を行い、国等に対し要望活動を展開しました。

- ・国要望活動 (7月25日～26日)
- ・基地政策特別委員会要望活動 (8月2日～4日)
- ・交通体系整備特別委員会要望活動 (11月6日～7日)



議会情報化推進事業

805万円

議会運営の安定化、効率化、迅速化のために、議会タブレット端末の更新を行いました。それに伴い、資料の更なる電子化を行い、印刷物の削減、スケジュールの共有等デジタル化が促進されました。



総務費

Uターン促進事業

5,578万円

- ・移住のワンストップ窓口「西九州させば移住サポートプラザ」を設置し、移住コーディネーターによるきめ細やかな対応を実施したほか、首都圏等で開催される移住相談会への参加やSNS等を活用した情報発信及び長崎県（ながさき移住サポートセンター）や西九州させば広域都市圏市町と連携した移住PRを実施しました。
- ・移住のニーズに対応した各種支援（補助金）を行いました。以上の取組により、過去最高の実績となる140世帯284人の移住者の方を本市にお迎えしました。

移住相談会（ながさき暮らし相談会）



行財政改革・地方分権推進事業（オフィス改革の推進） スマートワーク環境構築事業

7,056万円

5,598万円

働きやすく生産性が高い職場の実現に向け、本庁舎の一部フロアにおいて、試行的にオフィス改革の導入等を行い、多様性のある働き方の実現、業務におけるDX推進とともに、効果分析を実施しました。

- ・本庁舎6階と9階のオフィス改革
- ・本庁舎5階[一部]、6階、9階のスマートワーク環境構築（職員へのモバイルPC配布やWi-Fi環境整備等）



地区自治協議会活動等支援事業

7,081万円

「第3期佐世保市地域コミュニティ推進計画」を基に、地域コミュニティの維持・活性化を推進するための地区自治協議会の活動に必要な補助金の交付や活動の支援を行いました。



総務費

防犯活動等推進事業

8,894万円

防犯施策の推進のため、町内会等が管理する防犯灯について、町内会等が前年度に支払った電灯料に対する補助を実施しました。
また、町内会等が管理する防犯灯の電灯料支払を行う株式会社西九州させばパワーズへの補助を実施しました。
(事業期間令和5年4月1日～令和15年3月31日)



交通安全教育事業

2,014万円

交通安全意識の高揚及び交通事故の減少を目指し、高齢者や幼児を対象にシミュレータ機器を活用した交通安全教育を実施しました。



民生費

伴走型相談支援及び出産・子育て応援給付金実施事業

3億4,831万円

妊娠、出産、子育てに至る切れ目のない支援の一環として、伴走型による相談支援を行うとともに、出産育児関連用品の購入経費や子育て支援サービスの利用負担軽減を図る経済的支援として、出産・子育て応援給付金の支給を実施しました。



福祉医療支給費

7億8,716万円

安心して出産・子育てができる環境づくりのため、令和5年4月分の診療費から、高校生世代に対して、償還払い方式による支援を開始しました。



臨時給付金支給事業

41億4,386万円

電力・ガス・食料品等の価格高騰により特に家計への影響が大きい低所得世帯（住民税非課税世帯等）に対して臨時給付金を支給することで、生活・暮らしへの速やかな支援を実施しました。

- ・住民税非課税世帯臨時給付金 3万円/世帯
- ・住民税非課税世帯臨時給付金（追加給付） 7万円/世帯
- ・住民税均等割課税世帯臨時給付金 10万円/世帯
- ・住民税非課税世帯等臨時給付金（こども加算） 5万円/児童



衛生費

アピアランスケア助成事業

268万円

がんやがん治療により生じた脱毛等の外見の変化をウィッグ等で補う「アピアランスケア」について、患者本人の費用負担軽減に資する助成制度を新たに創設し、補助を行いました。

- ・ウィッグ購入者への助成 … 113件
- ・乳房補整具購入者への助成 … 25件
- 計 138件



衛生費

就学資金貸与支援事業

398万円

医師・看護師の流出防止と転入促進を図り、地域医療体制を維持することを目的に、市内の二次救急輪番病院が、将来自院に勤務することを条件に、医療従事者をめざす学生に行う修学支援の一部を補助しました。

- ・ 4 病院（医師1名・看護師14名）



新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業

5億6,040万円

新型コロナウイルスワクチンについて、国から供給されたワクチンの速やかな接種が可能となるよう、個別接種等の実施体制を整備しました。

- ・ 令和5年度接種（請求）件数 118,501件（集団接種を含む）



地球温暖化対策事業（EV公用車導入事業）

564万円

広報啓発車両として公用車への電気自動車の追加導入を行いました。（環境部 1 台・鹿町支所 1 台導入）
EV 導入による効果検証や課題整理を行い、全庁的なEV導入に向けた検討材料として活用します。



事業系ごみ対策事業

871万円

賞味（消費）期限が近くなった食品などをお得に購入できるWebサービス「サセボタベスケ」の運用や、民間事業者と連携し「フードドライブ活動」の取り組みを通して、廃棄される食品の削減を図りました。



労働費

労働雇用対策費

1,490万円

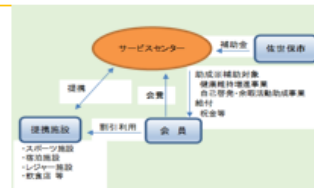
若年者の市外流出や企業の人手不足解消を目的として、高校生を対象とした企業説明会を実施しました。
また、「お仕事情報プラザ」を運営し、求職者への職業紹介事業を行いました。



勤労者福祉推進事業

1,253万円

市内中小企業や勤労者の福祉の増進や、市内企業への就業定着を目的として、福利厚生充実や勤労者福祉増進に寄与する関係団体への事業補助を行いました。



農
林
水
産
業
費

畜産施設・機械等整備事業

4,291万円

生産者団体が整備する牛舎等の施設整備に対して、費用の一部を補助しました。

- ・ 畜産用施設整備等
簡易牛舎1棟（北松地区）
- ・ 畜産クラスター構築事業
繁殖牛舎、堆肥舎各1棟（宇久地区）



水産センター機能強化事業

2億5,767万円

本市の水産業、特に栽培漁業の拠点施設である水産センターの機能強化を目的として、施設整備等を実施しました。

- ・ ろ過機・貯水槽架台新築工事（R4-5継続費）
- ・ 新魚種生産棟特殊基礎工事 など



商
工
費

地域通貨発行事業

42,752万円

令和4年度に導入した地域通貨プラットフォーム「させぼeコイン」の仕組みを使って、地域内での経済循環の促進及び地域活性化を図るため、佐世保市版電子地域通貨の発行・企画・運営を行いました。



誘客拡大緊急対策事業

7,834万円

経済対策として、市内宿泊施設で使えるクーポンによる宿泊助成（宿泊料金によって2千円または4千円）や市内周遊の参加型体験コンテンツ（リアル宝探しゲーム）などの各種キャンペーンを実施しました。



土
木
費

DX事業

3,961万円

佐世保市の主要な9箇所の道路冠水箇所に監視カメラや冠水センサー及び水位計を設置し、道路の冠水状況をモニタリングすることで、迅速な対応を行うためのシステムを構築しました。

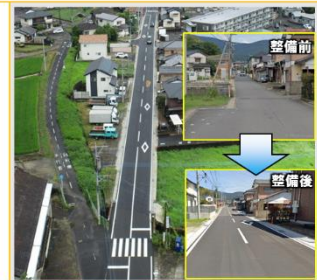


土木費

社会資本整備総合交付金事業(田原柚木町線道路整備事業)

2億447万円

安全で安心な車両通行を確保するため、道路拡幅整備を実施しました。



斜面密集市街地対策事業

6,528万円

地元住民との協働により、防災性の向上や老朽家屋の民間建替え促進を目指し、道路整備を実施しました。
また、東山地区において、東山町1号線が完成し、令和5年12月に供用開始しました。



公園施設長寿命化対策事業

1億1,330万円

老朽化が進行している公園施設の計画的な更新等を行うため、「佐世保市公園施設長寿命化計画」に基づき、公園施設の長寿命化対策を実施しました。



港湾費

ポートセールス振興業務

2,905万円

クルーズ客船寄港促進と上質な寄港地観光造成のため、クルーズ船社と連携したプロモーション活動を実施しました。また、クルーズ船内での市内物産品等の消費を促進するために、日本における大手の船舶積込事業者との関係構築及び市内物産品等の船内紹介の実証実験を行いました。



鯨瀬ターミナル周辺機能再編事業

15,881万円

施設利用者の利便性の向上や安全性を確保するとともに、フェリーの運航事業者が安全で運航に支障のない快適な施設利用ができるように、新たなフェリー岸壁の整備を行い、片側の供用を開始しました。



消
防
費

災害情報共有システム導入経費

7,206万円

災害情報の一元化や市民への迅速な情報発信のため、令和5年6月に災害情報共有システムを導入しました。



教
育
費

図書館運営事業

4,196万円

文化拠点施設として安全かつ快適な図書館運営のため、老朽化したエレベーター改修を実施しました。



生涯スポーツ推進事業

404万円

市民全体のスポーツ実施率の向上を目指し、市民体育祭をリニューアル。10月1日から10月31日の1ヶ月をスポーツ普及月間「させばスポーツマンズ」としました。



5

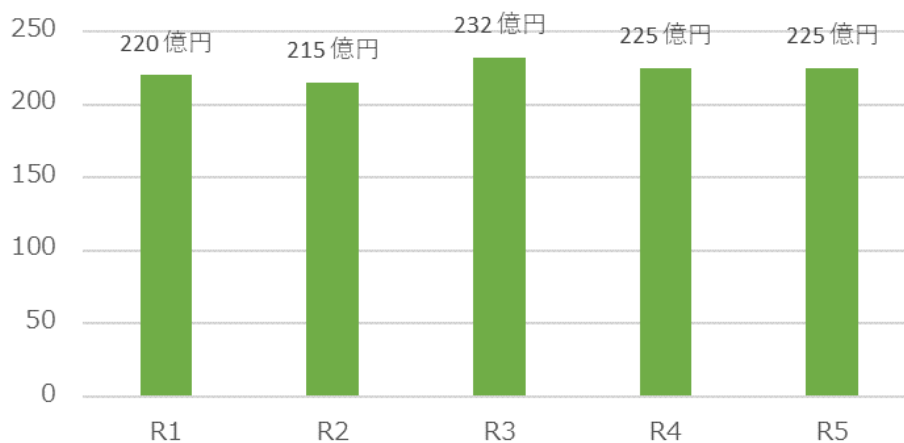
貯金や借金はどれくらいあるの？

市では、貯金のことを「基金」、借金のことを「市債」と呼んでいます。

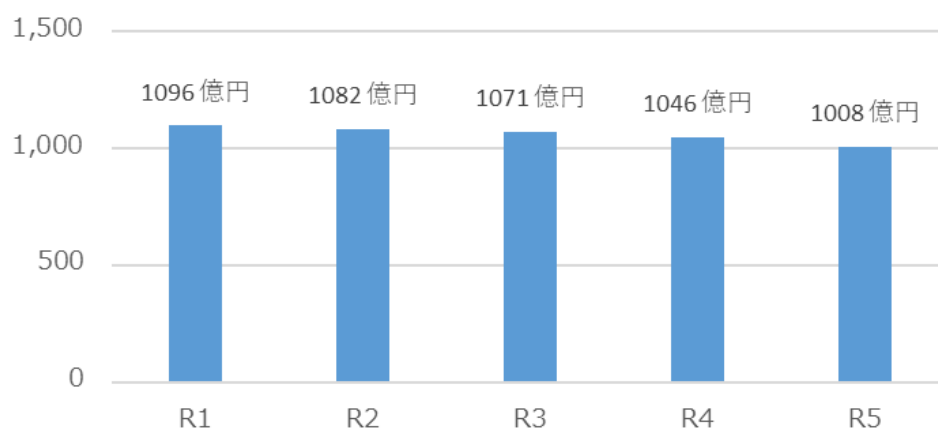
令和5年度末の基金（貯金）残高は225億4,858万円となっており、昨年度から41万円増加しました。基金残高は引き続き目標としている水準を維持しており、不測の事態に備える体制は確保できています。

また、令和5年度の市債（借金）残高は1,008億4,486万円となっており、昨年度から37億4,435万円減少しました。

基金残高の推移



市債残高の推移

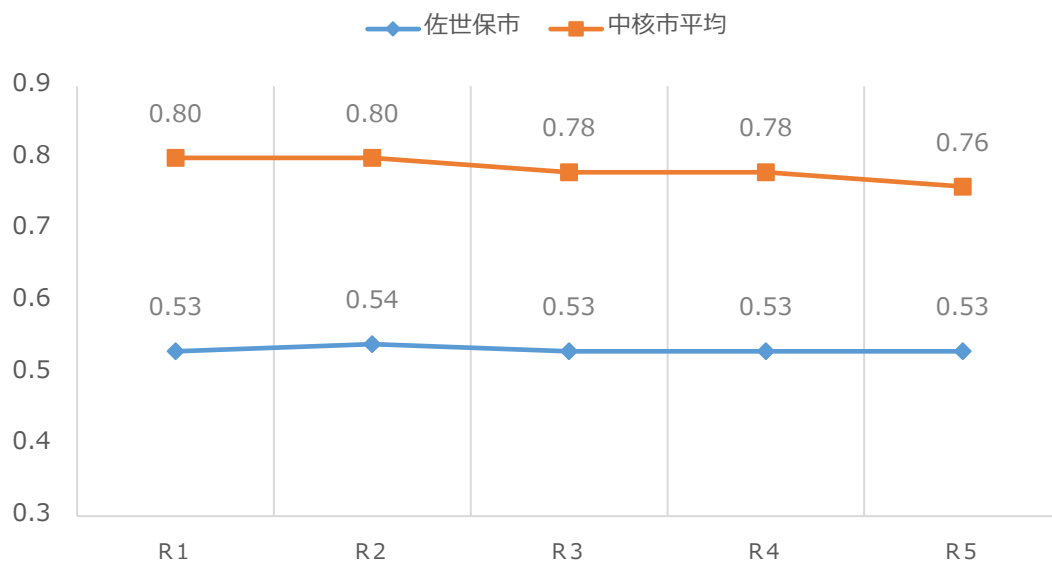


6

佐世保市の財政は大丈夫なの？

ここでは、佐世保市の財政状況を示す指標を3つ抜粋し、解説していきます。

(1) 財政力指数（3 か年平均）

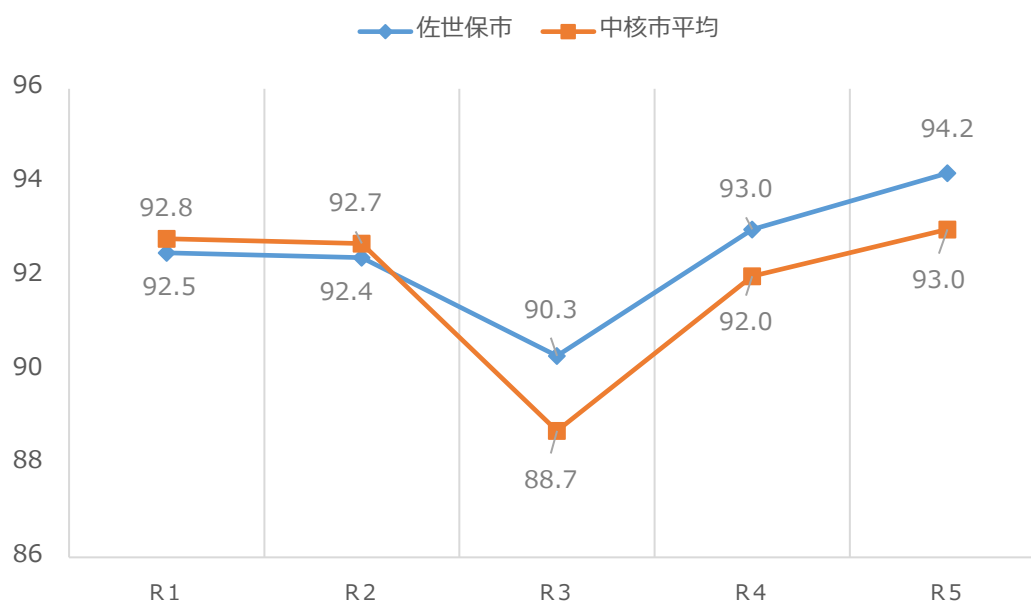


解説

財政力指数とは市の財政力を示す指標で、標準的な行政経費に対する、市税等の一般財源収入の割合を過去3か年の平均で算出したものです。簡単に言うと、「標準的な行政サービスを提供するために必要なお金をどれだけ自己の財源で賄えているか」を示す指標で、数字が高ければ高いほど良い指標になります。

佐世保市の令和5年度の財政力指数は0.53となっています。令和5年度の中核市平均は0.76となっており、佐世保市は他の中核市と比較して、行政経費に対する市税等の一般財源の割合が低いことが分かります。

(2) 経常収支比率



解説

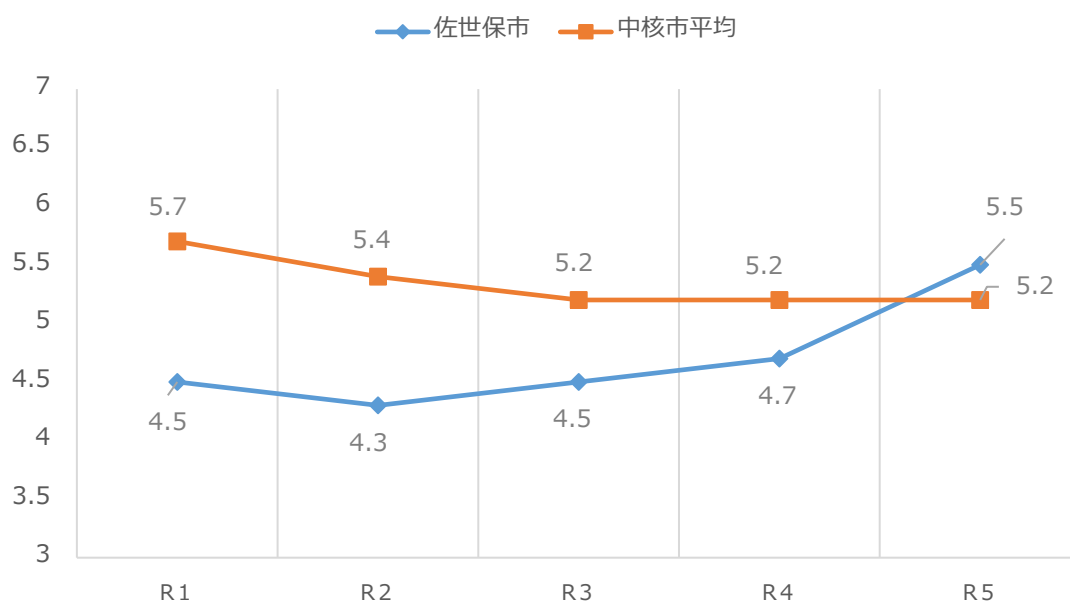
経常収支比率とは、経常的に入ってくるお金のうち、経常的に使用するお金の財源となったものの割合を示すものです。この数字が高いほど、臨時的に必要となった事業などにお金を回すことが難しくなるため、数字が低い方が良い（弾力性が高い）指標となります。

（例）家計で例えると・・・

給料などの経常的な収入に対して、食費や家賃などの生活費や教育費などの経常的な支出の割合が大きくなると、突発的な事故などで急な出費が発生した時にお金を回すことが難しくなります。

佐世保市の令和5年度の経常収支比率は94.2となっています。中核市平均と比較するとほぼ近い数字となっていることが分かります。

(3) 実質公債費比率



解説

実質公債費比率とは、通常見込まれる収入に対する借金返済のためのお金の割合のことで、少なければ少ないほど借金の負担が少ないことを表しています。

佐世保市の令和5年度の実質公債費比率は5.5となっており、令和5年度の中核市平均は5.2となっていることから、佐世保市は中核市平均と比較するとやや高くなっています。



ここでは3つの指標を見てきたけど、同規模の他団体と比較して財政力指数は低く、経常収支比率、実質公債費比率は平均並みであることが分かったね。一見、借金の負担額が多くなったように見えるけど、借金残高は大幅に減少しているよ。

でも財政力指数が低く、市税などの一般財源は他市と比較して少ないから、収入を増やすための努力をしていく必要があるね。

令和 5 年度の決算では、歳入歳出の差引で約 48 億円の黒字となりました。この余ったお金は翌年度の繰越金となり、令和 6 年度の事業に活用されることとなります。

基金の残高は前年度と同水準であり、目標としていた金額を確保できていること、市債残高についても約 38 億円減少させることができたこと、また、コロナ禍及び物価高騰対策を講じながら第 7 次総合計画前期基本計画の最終年度において掲げたまちづくり関連の取組を積極的に推進することなどにより、活力ある地域づくりが進んだことなどを含め、総じて堅調な財政運営ができたものと考えています。

しかし、佐世保市は自主財源に乏しいことから、財政的に安定しているとはいえません。また、今後「選ばれるまち SASEBO」の実現に向けた新たな施策展開や社会経済状況の変化により行政が担うべき新たな政策課題にも適切に対応していく必要があることから、引続き歳入・歳出両面からの収支改善策の断行が必須となっています。



未来へつなぐ ゼロカーボン！
ZERO CARBON CITY
SASEBO